

看護専門科目	共通基盤看護学					
看護学科	必修	2単位	演習	平成30年度	後期	2年次
科目名	共通基盤看護学実践論Ⅱ(セルフケアを支える看護)					
担当教員	◎岩本淳子 松井利江 安仲恵 丹生淳子					
目的	慢性疾患(がんを含む)による健康問題を持った成人期にある人とその家族に対する看護を実践するための基礎的な知識と技術を理解する。					
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性期にある人およびがん患者の身体的特徴を説明できる。</li> <li>2. 慢性期にある人およびがん患者の心理・社会的特徴を説明できる。</li> <li>3. 慢性期にある人およびがん患者の検査・治療・予後を説明できる。</li> <li>4. 慢性期にある人およびがん患者の生活への影響を説明できる。</li> <li>5. 慢性期にある人およびがん患者のセルフケアを支援する援助について説明できる。</li> <li>6. 慢性期にある人およびがん患者事例の看護問題を診断できる。</li> <li>7. 慢性期にある人およびがん患者事例の看護成果と看護の方向性を導くことができる。</li> </ol>					
他科目との関連	共通基盤看護学概論Ⅰ・Ⅱ、実践基礎論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、共通基盤看護学実践論Ⅰ、体のしくみと疾病の成り立ちⅠ～Ⅵと密接に関連する。また、この授業内容は、共通基盤看護学実習Ⅲや広域発展看護学につながるものである。					
評価方法	項目	評価の内容				評価の比率
	筆記試験	定期試験の成績				0.6
	レポート					
	記録等	事例検討の記録				0.4
	その他					
評価基準	総合の得点100～90点を秀、89～80点を優、79～70点を良、69～60点を可と評価し、合格とする。59点以下は不可と評価し、不合格とする。					
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鈴木志津枝編「慢性期看護論 成人看護学」ヌーヴェルヒロカワ</li> <li>・小松 浩子他「がん看護学」医学書院</li> <li>・共通基盤看護学実践論Ⅰで購入・使用した「NANDA-I看護診断最新版」「看護診断のためのよくわかる中範囲理論」学研を使用する</li> </ul>					
参考資料	鈴木志津枝編「緩和・ターミナル看護論 成人看護学」ヌーヴェルヒロカワ ピエールウグ編「慢性疾患の病みの軌跡 コービンとストラウスによる看護モデル」医学書院 安酸史子編「ナーシング・グラフィカ25 成人看護学ーセルフマネジメント」メディカ出版					
備考 (受講上注意、事前学習等)	病気の成り立ち、主要症状、検査・治療等の事前学習を行ったうえで授業の事例検討に臨むこと。また、授業を受けた後は提示された課題に取り組むほか、各自で内容を設定し、事後学習すること。					